

令和5年度 学校経営方針

令和5年(2023)4月1日

国立市立国立第七小学校

校長 小畑 行広

—学校教育目標—

かしこく

◎やさしく

げんきよく

(◎印 本年度重点目標)

1. 学校経営の基本理念

現在の社会は、人と人が繋がることや関係を作る段階において、相手を知り相手を認めることに、とても困難な時代を迎えています。新型コロナウイルス感染症においては、人が人として、本来もつ集合化するというこれまでの生活から、新しい生活様式というお互いの大切な命を守るための生活にシフトさせ、人と人との距離を置くことが求められました。

また、国際社会においては、国と国とがお互いを信じ、認め合う状況になかなかねえずに、その中で生まれる悲しい現状を否が応でも知らなければならず、平和な社会とは何かを切実に考えさせられる時となっています。

未来に希望をもち、未来を生きる子供たちに、よりよい社会を残していくためには、私たちの足元をもう一度よく見て、よく考え、そして、対話をしていくことが求められています。

私たち国立第七小学校においても、子供たちの安全と安心を第一に学校生活と学びの保障を掲げながら、教職員の力を結集した「チーム七小」として、昨年度、様々に取組を工夫し、教職員全員の力を合わせることで、成果の大小はあるものの、様々な結果を残すことができています。昨年度の成果や課題を基に、今年度は、**パワーアップ「チーム七小」**を目指してまいります。

そのために、本校は、**「未来を自ら切り拓く力を、子供たちに身に付けさせる学校」**を、学校経営の基本理念としていることから、全教職員が目の前にいる一人の児童の特性を知り、多様性を認め、それぞれがそれぞれの生き方を目指すことができる資質や能力を育成していくことが必要となります。本校に設置されている全ての学級・教室が緊密に連携し、連動して、保護者や地域とよりよい関係を構築しながら、**「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化の更なる推進**を図ってまいります。

また、今年度においては、昨年度からの重点目標である**「やさしく」の第2期**として、児童の自己肯定感の高さや挨拶などの礼儀、下学年や友達に対する関わりにおける優しい姿勢等を土台にして、特別支援教育に係る「特別支援学級 くるみ学級」「特別支援教室 はばたき」「きこえとことばの教室」が設置された学校として、特別支援教育の本市における中心的学校として、表面的な優しさだけでなく、**「真のやさしさ」**を学校全体で深め共有し、心の教育の要でもある特別な教科 道徳の授業や教育活動全体を通して、豊かな心をもつ児童や感受性豊かな児童の育成を目指してまいります。また、本市が推進するフルインクルーシブ教育の一つの在り様を模索すると共に、本校の存在意義を更に高めてまいります。

続いて、今年度は、教育委員会研究奨励校の2年目として研究発表を行う年となりました。

本校の目指す「真のやさしさ」を追求していく上でも心の教育が鍵となることから、特別の教科 道徳の授業時における「主体的・対話的で深い学び」を目指し、教材における内容項目の構造的な価値を明らかにした授業展開を目指し、児童及び教職員はもちろんのこと、保護者や

地域の方々を含めた「**一体感のある心のバリアフリー**」の土台となる心の教育について、教育活動全体を通して深めてまいります。

また、昨年度、開校50周年を終えた、次の60周年を目指す51年目の年としての意義も踏まえつつ、これまで本校の子供たちの安全を陰に陽に支えていただいている「見守り会」の皆様をはじめとする**地域の皆様への感謝と地域貢献の心情**を更に高める取組を展開してまいります。

そのためには、本校の教職員のそれぞれが得意としている分野や専門性を高め、自身の研鑽を通して身に付けた力を遺憾なく発揮するとともに、ユーモアのある対話が弾む明るく楽しい職員室であることにより、各学級・学年での生活が一人一人の児童にとって明るく楽しい安心と安全の居場所となることをお互いに確認し合ってまいりたい。

また、子供たちの日々の姿や行動は、そのまま私たち教職員の姿や行動となっていることをお互いに理解し、子供たちは、私たち教職員一人一人を映し出す「鏡」として、子供たちの日々の成長をよく見取り、様々な場面に応じて、適切な価値付けを行うことができるよう、私たち自身の成長を目指してまいります。

最後に、本校の強みは、目の前の一人の児童を大切にした学校運営・学級運営を行うことができる学校だということです。つまりは、教職員の一人一人が本校の子供たちのために必要なことをそれぞれの立場や役割において考えるとともに、必要な手立てを講じていくことができるという「**自分事として**」**取り組むことができる**のが、本校の教職員です。

この強みを生かすためには、毎年、教職員の入れ替わりがある状況においても、全教職員の取組の状況を共有しながら、私たち自身が健康で、しなやかな心身の下に「**今、目の前にいる一人の子供に必要なこと**」を学習面でも生活面でも実践し、本校の経営の基本理念である「未来を自ら切り拓く力を、子供たちに身に付ける学校」として、更なる発展を目指してまいります。

2. チーム七小の基本姿勢

(1) 授業力の向上を常に目指します。

- 重点目標である「優しく」の達成のために、研究奨励校2年目として、校内研究の軸である特別な教科 道徳の研究授業を通して、授業改善を行います。
- 研究発表のための校内研究ではなく、自身の成長と授業力の向上を通して、育てたい児童像の達成を目指した校内研究とします。
- 教員としての自身の専門性を見つめ、研究・研鑽することを通して、「楽しく、分かる授業」を創造します。
- 「授業参観・公開授業」のような、誰もがいつでも見合える環境づくりに取り組み、学びと成果を共有し合います。
- 子供たちの学習に対する思いや考えを見取るためのアンケート等の手立てにより、子供の実態を把握して、授業に活かします。

(2) 信頼ある開かれた学校づくりに努めます。

- 児童の丁寧かつ適切な見取りと情報共有を基にした保護者に寄り添う支援により信頼関係を築きます。
- 自らを教育公務員であり、チーム七小の一員であることに誇りをもちつつも、謙虚であることを忘れません。
- 学校での児童の状況や体調不良、怪我等については慎重に対応するとともに、直ぐに報告・連絡・相談し、迅速な対応を行います。

(3) 子供の世界や感性を尊重します。

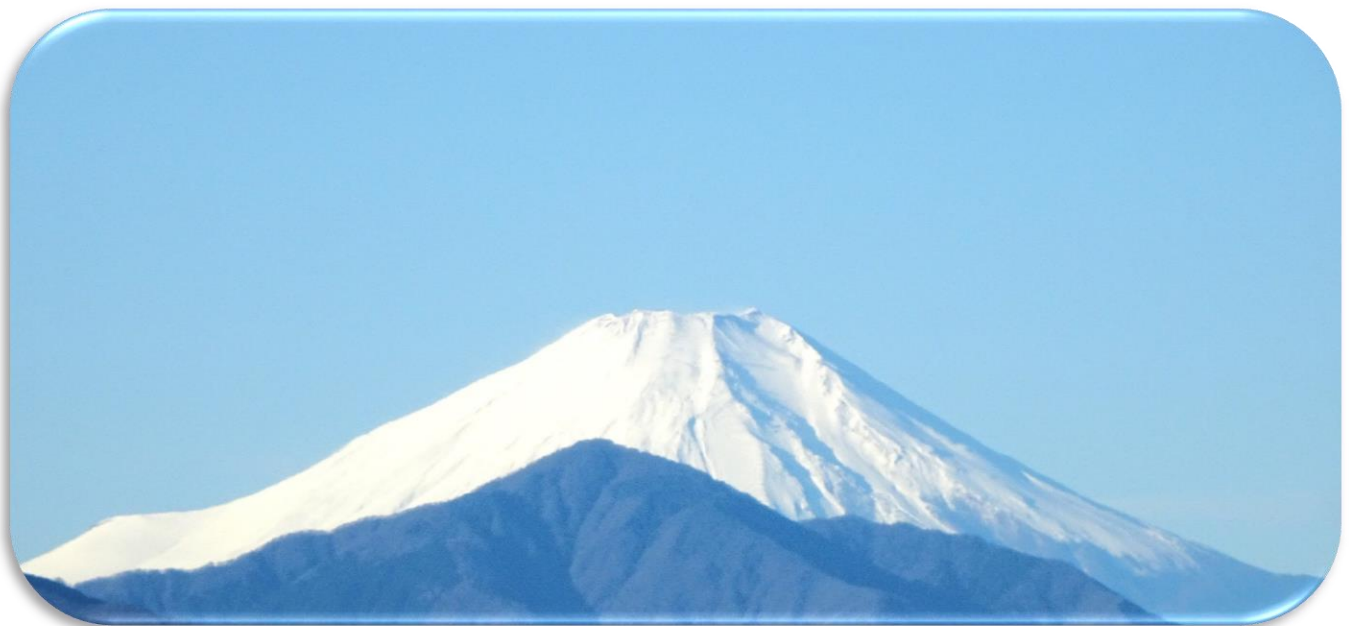
- 「子供は、一人の人として、成長の過程にある。」ことを大切にします。
- 一人の人として、子供のもつ世界観や感性を認め、教職員のもつ世界観や感性を、子供と共有し合えるような関係づくりを行います。
- 子供のもつ力や可能性を信じ、どこまでも子供たちの自立に向けた指導や支援を行います。

(4) 今あるものを常に見直し、改善につなげます。

- 教育活動実施後の反省として、本校に必要と判断したものは継続し、改善が必要なものは改善案を提示して反省を行います。
- 各反省の時点で、次年度の計画に活かし改善を確認しておくことで、年度末の業務軽減に繋がるとともに、本校の短期的及び中・長期的な見通しをもつようにします。
- 自らが担当する職務や立場において、適切な情報発信や情報共有をするとともに自分事として捉え、協働した行動に努めます。

(5) 未来を志向し、共有します。

- 開校51年目を迎え、開校60周年に向けた5年目・10年目の本校を創造し、見通しながら、中・長期展望を教職員及び地域の代表である学校評議員、保護者の代表であるPTAと共有します。
- 学校課題や学年・学級課題を自分事として捉え、様々な取組を検討したり、提案したりしながら、よりよい七小創りに貢献できる教職員としての自覚をもちます。



R4. 11. 24 校長室より撮影

本校がある場所の地名は、富士見台です。

地名にある通りに、世界でも有名な日本一の山「富士山」を2階以上の教室や屋上から見ることができます。

本校の子供たちが、富士山のような堂々とした姿で、日本でも世界でも活躍することができるような基礎的・基本的な力を身に付けさせられるよう、日々努めてまいります。